

動物のくらし

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：動物のくらしは、生息する場所の環境条件や他の生物との相互作用に強い影響を受けている。自然界では、不適切な動きはその個体の消耗や死に直結することも多く、変化する環境条件に対して種によって違った挙動をする。人間の目には奇妙に映る動物のいろいろな動きも、それぞれの種の個体が生き残って繁殖するために進化させた効率的なやり方である。さまざまな要因に対していろいろな動物がどのように適応しているかを知ることによって、動物のくらしの多様さとそれを生み出しているメカニズムを学び、環境と生物の関係を理解する。また、本来地球生態系の一員である私たち人類が、その他の動物とどのような面で違い、動物のくらしにどのような影響を及ぼしているかを考える。

- 到達目標**：①動物のくらしの多様さを学ぶ
②環境が動物のくらしに与えている制約とそれに対する適応を知る
③生物間の相互作用とそのつながりの広さを理解する

■**担当教員**：

桑原 禎知

■**授業計画・内容**：

- 第1回 動物のくらし(序)：人間と動物／科学的な考え方
- 第2回 動物のくらし場所(1)：自然の階層性／動物と植物／陸上と水中
- 第3回 動物のくらし場所(2)：環境条件と一次生産／植物と動物の分布
- 第4回 生物間の相互作用(1)：資源と競争／ニッチ／共存
- 第5回 動物のくらし場所(3)：環境勾配と動物の分布／形質置換と進化
- 第6回 生物間の相互作用(2)：相互作用／生態系エンジニア／群集と生態遷移
- 第7回 動物の移動と生活史(1)：系内の流れ／分散と移動／季節移動・回遊
- 第8回 動物の移動と分布(2)：環境の多様さと群集／個体群とメタ構造／ビオトープ
- 第9回 動物の行動と社会：なわばり／群れ／社会
- 第10回 生活史と繁殖システム(1)：資源分割／繁殖様式
- 第11回 生活史と繁殖システム(2)：生活史戦略と戦術／タイミング・フェノロジー
- 第12回 環境と個体数：個体群動態／環境収容力／密度効果
- 第13回 食物網と生態系：系内のつながり／系間のつながり／食物網と栄養カスケード
- 第14回 環境変動と動物：環境変化とレジームシフト／地史と動物の分布
- 第15回 人間と動物：人間活動と生態系の変化／動物くらしの未来

*内、1回分を芸森キャンパス内でのフィールドワークに変更する可能性がある。

■**教科書**：生態学入門 第2版 日本生態学会編 東京化学同人 2940円(2年後期のエコロジーデザイン論と共通です)

■**参考文献**：各授業のテーマに応じて補足資料を配布します。

■**成績評価基準と方法**：定期試験(70%)の点数に、授業中に数回行う小レポートを加点(15%×2回程度)して評価する。定期試験は単なる穴埋めや選択ではなく、科学的な推察による論述型の問題が多くなります。

評価方法	到達目標			評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③	
定期試験	◎	◎	◎	70
小テスト・授業内レポート				30
授業態度				
発表				
作品				
出席				
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：環境を考える(2年前期)、エコロジーデザイン論(2年後期)

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：動物のくらしを学ぶことで、私たち人間の生活を見つめ直し、その相違点を意識してもらいたい。用語や説明を覚えることよりも、一つの出来事が次々と連鎖して他の現象に影響を与えるというパズルを推察する思考方法を身に付けてもらいたいと思います。授業では上記の教科書を参考書として引きつつ、各回のテーマにあわせて適宜資料を配布します。授業中は随時質問を受け付けます。